

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の **a** と **c** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、		答案用紙②の場合、	
103	<input checked="" type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b <input checked="" type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e	103	<input type="radio"/> a <input type="radio"/> 103
	↓	<input checked="" type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> b
103	<input type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> c →	<input type="radio"/> d
		<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
		<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)
				↓						
104	(a)	(b)	(c)	●	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)

答案用紙②の場合、

104	104
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	(c)
(d)	●
(e)	(e)
(f)	(f)
(g)	(g)
(h)	(h)
(i)	(i)
(j)	(j)

(4) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例5)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例5) 105 動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)の結果を示す。

pH 7.41、PaCO₂ 41 Torr、PaO₂ 83 Torr、HCO₃⁻ 25 mEq/l、

Na⁺ 138 mEq/l、K⁺ 3.2 mEq/l、Cl⁻ 95 mEq/l。

アニオンギャップを求めよ。

解答：①②.③ mEq/l

①	②	③
0	0	0
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9

(例5)の正解は「18.0」であるから①は答案用紙の①を②は⑧を③は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
105②	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
③	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

	105		
①	②	③	
0	0	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

- 1 合併症妊娠と起こりやすい異常の組合せで正しいのはどれか。
- a 糖尿病 ————— 頸管無力症
 - b 慢性腎炎 ————— 前置胎盤
 - c 気管支喘息 ————— 双胎間輸血症候群
 - d 甲状腺機能亢進症 ————— 巨大児
 - e 全身性エリテマトーデス(SLE) ———— 流産
- 2 前頭側頭型認知症の初期に認められるのはどれか。
- a 幻覚
 - b 健忘
 - c 失行
 - d 無関心
 - e 見当識障害
- 3 調節性内斜視の原因となるのはどれか。
- a 遠視
 - b 乱視
 - c 眼振
 - d 上斜筋麻痺
 - e 顔面神経麻痺

- 4 急性肺血栓塞栓症のリスクファクターでないのはどれか。
- a るいそう
 - b 長期臥床
 - c 悪性腫瘍
 - d プロテイン C 欠乏症
 - e 中心静脈カテーテル留置
- 5 生物学的製剤(抗 TNF- α 抗体製剤)を用いた Crohn 病治療の対象とならないのはどれか。
- a 65 歳以上の患者
 - b 活動性結核を合併する患者
 - c 腸管皮膚瘻(外瘻)を合併する患者
 - d 他の Crohn 病治療薬を服用中の患者
 - e 生物学的製剤による寛解導入後の患者
- 6 糖尿病の慢性合併症でないのはどれか。
- a 足趾壊疽
 - b 尋常性痤瘡
 - c Charcot 関節
 - d 浮腫性硬化症
 - e Dupuytren 拘縮

7 症候群と病態・疾患の組合せで正しいのはどれか。

- a Boerhaave 症候群 ————— 好酸球性胃腸炎
- b Dubin-Johnson 症候群 ————— 消化管ポリポーシス
- c Gardner 症候群 ————— GIST〈gastrointestinal stromal tumor〉
- d Gilbert 症候群 ————— ビリルビン代謝異常
- e Zollinger-Ellison 症候群 ————— 膵・胆管合流異常症

8 我が国の成人の腸閉塞の原因で最も多いのはどれか。

- a 大腸癌
- b 腸重積
- c 腸管癒着
- d S 状結腸捻転
- e 鼠径ヘルニア嵌頓

9 イマチニブ〈イマチニブメシル酸塩〉が有効なのはどれか。

- a 慢性骨髄性白血病
- b 慢性好中球性白血病
- c 真性赤血球増加症
- d 原発性骨髄線維症
- e 本態性血小板血症

- 10 我が国の不妊症の現状について正しいのはどれか。
- a 出生 500 人に約 1 人が体外受精児である。
 - b 女性不妊の頻度は男性不妊の約 5 倍である。
 - c 40 歳代女性の不妊症の頻度は約 10 % である。
 - d 同年齢層では体外受精の流産率は自然妊娠よりも高い。
 - e 女性の加齢とともに体外受精による妊娠率は低下する。

- 11 勃起障害の改善に有効でないのはどれか。
- a 禁 煙
 - b テストステロンの投与
 - c LH-RH アゴニストの投与
 - d 患者とパートナーのカウンセリング
 - e PDE 5 (phosphodiesterase 5) 阻害薬の投与

- 12 頭部単純 CT(別冊 No. 1 ①～⑤)を別に示す。

2 か月前に頭部打撲の既往があり、歩きにくさを訴える高齢者の頭部単純 CT として考えられるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 1 ①～⑤

13 消化管閉塞のない回盲部癌の周術期管理について適切なのはどれか。

- a 術前に中心静脈栄養を行う。
- b 術前の絶食期間は3日以内とする。
- c 術中に脂肪乳剤の投与を行う。
- d 術中にドレーンの留置は行わない。
- e 術後7日間は経口栄養を行わない。

14 肺炎の原因菌で尿中抗原検査が診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a *Streptococcus pneumoniae*
- b *Pseudomonas aeruginosa*
- c *Mycoplasma pneumoniae*
- d *Legionella pneumophila*
- e *Haemophilus influenzae*

15 高プロラクチン血症をきたすのはどれか。2つ選べ。

- a 褐色細胞腫
- b 腎性尿崩症
- c プロラクチノーマ
- d 甲状腺機能亢進症
- e 制吐薬(メトクロプラミド)の服用

16 サルコイドーシスの気管支鏡検査所見として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 気管支粘膜の白苔
- b 粘膜下血管の網目形成所見
- c 気管支肺胞洗浄(BAL)液中のリンパ球分画低下
- d 米のとぎ汁様の白濁した気管支肺胞洗浄(BAL)液
- e 経気管支肺生検(TBLB)での非乾酪性類上皮細胞肉芽腫

17 淋菌感染症について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 子宮頸管炎として発症する。
- b Gram 陽性球菌が認められる。
- c 潜伏期間は4～6か月である。
- d 女性では骨盤内炎症性疾患(PID)に進展する。
- e 検査法としてのPCR法の感度はGram染色と同等である。

18 欠乏すると血栓傾向が生じるのはどれか。3つ選べ。

- a アンチトロンビン
- b フィブリノゲン
- c プロテインC
- d プロテインS
- e プロトロンビン

19 腎生検のPAM染色標本(別冊No. 2A)と蛍光抗体IgG染色標本(別冊No. 2B)とを別に示す。

原因として考えられるのはどれか。3つ選べ。

- a 梅毒
- b 大腸癌
- c B型肝炎
- d 悪性高血圧症
- e 紫斑病性腎炎

別冊 No. 2 A、B

20 精神作用物質と離脱症状の組合せで正しいのはどれか。3つ選べ。

- a アヘン ————— 縮瞳
- b アルコール ————— 発汗
- c 抗不安薬 ————— 不眠
- d ニコチン ————— 食欲低下
- e メタンフェタミン ——— 疲労感

21 30歳の初妊婦。妊娠34週3日。自宅近くの産科診療所の腹部超音波検査で、羊水過多と胎児胸部腫瘤とを指摘されたため、紹介されて受診した。胎児心拍数陣痛図に異常を認めない。内診で子宮口は閉鎖している。腹部単純MRIのT2強調像(別冊No. 3)を別に示す。

胎児の診断として最も考えられるのはどれか。

- a 右胸心
- b 乳び胸
- c 心臓腫瘍
- d 縦隔腫瘍
- e 横隔膜ヘルニア

別 冊
No. 3

22 40歳の男性。3週間からの右側の鼻閉と頬部違和感を主訴に来院した。副鼻腔エックス線写真と副鼻腔単純CTとで右上顎洞に異常陰影を認めたため、内視鏡下に中鼻道から上顎洞組織の生検を行った。副鼻腔単純CT冠状断像と横断像(別冊No. 4A、B)、生検組織のGrocott染色標本(別冊No. 4C)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 上顎洞癌
- b 菌性上顎洞炎
- c 慢性副鼻腔炎
- d 副鼻腔真菌症
- e 術後性上顎嚢胞

別 冊
No. 4 A、B、C

23 78歳の男性。「誰もいないのに知らない人が部屋に見える」と訴え、来院した。妻によると、数年前から日中は眠そうではう然としていることがしばしばあり、徐々に物忘れが目立ってきたという。動作は緩慢で、小刻みに歩く。

この疾患でみられるのはどれか。

- a 常同行動
- b 滞続言語
- c 言語蹉跌
- d 全生活史健忘
- e レム(REM)睡眠行動障害

24 19歳の男性。人前で話ができないことを主訴に来院した。昨年春に大学に入学した。クラブ活動のオリエンテーションで自己紹介を求められた時に、皆の視線を感じて緊張して体が震えることがあった。それ以来、人前に出ることを避け、希望していたクラブにも入らず、講義に出るだけの大学生活を続けている。抑うつ症状はみられず、明らかな幻覚や妄想も認められない。

最も適切な治療はどれか。

- a 芸術療法
- b 家族療法
- c 遊戯療法
- d 認知行動療法
- e 精神分析療法

25 53歳の男性。発熱と全身の皮疹とを主訴に来院した。脳腫瘍術後に出現したてんかんに対し1か月前からカルバマゼピン内服を開始した。2日前から顔面と頸部とに紅斑が出現し、全身に拡大した。発熱もみられたため受診した。体温38.5℃。頸部リンパ節腫脹を認める。全身に紅斑を認める。口腔粘膜に異常を認めない。血液所見：赤血球420万、Hb13.5g/dl、Ht41%、白血球12,300(好中球59%、好酸球15%、好塩基球1%、単球7%、リンパ球11%、異型リンパ球7%)、血小板13万。血液生化学所見：AST88IU/l、ALT91IU/l、LD425IU/l(基準176~353)。CRP3.3mg/dl。胸腹部の写真(別冊No.5)を別に示す。なお、初診時に比べ、4週後の再診時には抗ヒトヘルペスウイルス6IgG抗体価の有意な上昇を認める。

最も考えられるのはどれか。

- a 膿疱性乾癬
- b Gibert ばら色秕糠疹
- c Stevens-Johnson 症候群
- d ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
- e 薬剤性過敏症症候群<drug-induced hypersensitivity syndrome>

別冊
No. 5

26 1歳5か月の男児。発熱と鼻水とを主訴に母親に伴われて来院した。昨夜夜泣きをしてなかなか寝付かなかったという。食欲はある。体温38.2℃。呼吸音に異常を認めない。鼻汁が鼻内に充満している。咽頭所見で軽度の発赤と後鼻漏とを認める。右鼓膜の写真(別冊No. 6)を別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 耳管通気
- b 乳突洞削開術
- c 抗菌薬の経口投与
- d 鼓室換気チューブ留置術
- e 副腎皮質ステロイドの経口投与

別 冊
No. 6

27 生後8日の新生児。異常な動きを心配した母親に連れられて来院した。在胎38週1日2,750gで出生した。生後特に異常なく退院した。生後6日からしゃっくりが出現した。生後7日には両手を挙げて首を振るような動作が数回みられ、目や口を見開き、びっくりするような表情がみられた。生後8日にも首を振る動作がみられ、四肢の振戦もみられるようになったため受診した。意識は清明。咽頭に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に振戦を認める。血液所見：赤血球518万、Hb 18.6 g/dl、Ht 51%、白血球15,300、血小板21万。血液生化学所見：血糖50 mg/dl、総蛋白6.3 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、尿素窒素10 mg/dl、クレアチニン0.3 mg/dl、総ビリルビン15.2 mg/dl、直接ビリルビン0.3 mg/dl、AST 42 IU/l、ALT 17 IU/l、Na 131 mEq/l、K 3.2 mEq/l、Cl 97 mEq/l、Ca 6.2 mg/dl。CRP 0.1 mg/dl。

対応として最も適切なのはどれか。

- a 5%ブドウ糖液の静注
- b 塩化カリウムの急速静注
- c 塩化ナトリウムの静注
- d グルコン酸カルシウムの静注
- e 光線療法

28 65歳の女性。全身倦怠感と微熱とを主訴に来院した。1週前から全身倦怠感を自覚していた。3日前から37℃台の微熱が続いているという。5年前から関節リウマチで抗リウマチ薬と副腎皮質ステロイドとを服用中である。意識は清明。身長156 cm、体重46 kg。体温37.4℃。脈拍92/分、整。血圧120/70 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂ 97 % (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液所見：赤血球446万、Hb 13.0 g/dl、Ht 39 %、白血球7,300 (桿状核好中球20 %、分葉核好中球46 %、好酸球1 %、好塩基球1 %、単球10 %、リンパ球22 %)、血小板16万。CRP 2.6 mg/dl。胸部エックス線写真で右側下肺野に多発結節影を認める。肺野条件の胸部単純CT (別冊No. 7A) と気管支肺胞洗浄(BAL)液の墨汁染色標本 (別冊No. 7B) とを別に示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 内因性感染である。
- b 血清抗原検査の感度は高い。
- c 血清β-D-グルカン値は上昇する。
- d 発症予防にST合剤の内服が有効である。
- e 原因微生物は *Aspergillus fumigatus* である。

別冊 No. 7 A、B

29 60歳の女性。咳嗽を主訴に来院した。6か月前に人間ドックで異常なしと診断されたが、1か月前から咳嗽が出現し、改善しないため受診した。喫煙は20本/日を40年間。意識は清明。身長158cm、体重57kg。体温36.2℃。脈拍64/分、整。血圧134/82mmHg。呼吸数20/分。SpO₂96%(room air)。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液所見：赤血球418万、Hb12.9g/dl、Ht40%、白血球4,600、血小板15万。血液生化学所見：総蛋白7.5g/dl、アルブミン3.5g/dl、AST30IU/l、ALT28IU/l。胸部エックス線写真(別冊No. 8A)、胸部造影CT(別冊No. 8B)及びPapanicolaou染色による喀痰細胞診(別冊No. 8C)を別に示す。全身検索で遠隔転移を認めない。

最も適切な治療はどれか。

- a 手術
- b 免疫療法
- c 放射線治療
- d 抗腫瘍化学療法
- e 化学放射線療法

別冊

No. 8 A、B、C

30 28歳の女性。労作時の息切れと動悸とを主訴に来院した。生来健康で、中学と高校では陸上部に所属していた。1年前に第1子を出産した頃から、自宅の階段を昇る時に息切れと動悸とを感じるようになった。次第に症状が強くなり、1週前に急いで階段を昇った時に目の前が暗くなったため、心配になり受診した。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。意識は清明。脈拍80/分、整。血圧98/66 mmHg。SpO₂ 94%(room air)。両側の頸静脈の怒張を認める。呼吸音に異常を認めない。心臓の聴診でII音の亢進を認める。血液所見：赤血球480万、Hb 14.7 g/dl、Ht 46%、白血球8,500、血小板17万。胸部エックス線写真(別冊No. 9A)と心電図(別冊No. 9B)とを別に示す。

この患者で予想される血行動態はどれか。

	平均肺動脈楔入圧	平均肺動脈圧
a	高 値	高 値
b	高 値	正 常
c	高 値	低 値
d	正 常	高 値
e	低 値	低 値

別 冊
No. 9 A、B

31 43歳の女性。1か月前から労作時の息切れを自覚し、心尖部にⅢ/Ⅵ度の汎〈全〉収縮期雑音を聴取する。心エコー図(別冊No. 10A、B)を別に示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 中心静脈圧が低下する。
- b 右→左シャントを認める。
- c 左室流出路狭窄を認める。
- d 左室の圧負荷が増大する。
- e 左房の容量負荷が増大する。

別冊 No. 10 A、B

32 42歳の女性。発熱を主訴に来院した。1週間前から発熱を認め自宅近くの診療所で感冒薬と解熱薬とを処方されたが、改善しないため受診した。身長162 cm、体重48 kg。体温38.6℃。脈拍96/分、整。血圧98/42 mmHg。呼吸数15/分。聴診で拡張期灌水様(拡張早期性)雑音を認める。血液所見：赤血球468万、Hb13.9 g/dl、Ht42%、白血球17,300(桿状核好中球12%、分葉核好中球70%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球10%)、血小板12万、PT84%(基準80~120)。血液生化学所見：総ビリルビン0.9 mg/dl、尿素窒素12 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl、AST28 IU/l、ALT16 IU/l、LD377 IU/l。CRP3.6 mg/dl。心エコー図(別冊No. 11)を別に示す。

この患者の合併症として最も留意すべきなのはどれか。

- a 肺線維症
- b 脳塞栓症
- c 肺血栓塞栓症
- d 急性腎盂腎炎
- e 亜急性甲状腺炎

別冊
No. 11

33 50歳の男性。胸痛を主訴に来院した。数日前から風邪気味であったが、昨日から左前胸部痛が出現した。痛みは数時間続くことがあり、深吸気時と仰臥位とで増強する。意識は清明。身長170 cm、体重67 kg。体温36.9℃。脈拍84/分、整。血圧140/84 mmHg。聴診で収縮期と拡張期とに高調な心雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。血液所見：赤血球456万、Hb 14.5 g/dl、Ht 44%、白血球8,900、血小板20万。CRP 4.5 mg/dl。胸部エックス線写真に異常を認めない。心電図(別冊No. 12)を別に示す。心エコー検査では左室の拡大はなく壁運動に異常を認めないが、左室後壁の背側にエコーフリースペースをわずかに認める。

治療薬として適切なのはどれか。

- a 免疫抑制薬
- b カルシウム拮抗薬
- c アンジオテンシン変換酵素阻害薬
- d 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)
- e t-PA〈組織プラスミノゲンアクチベーター〉

別冊 No. 12

34 30歳の男性。腹痛と下痢とを主訴に来院した。トレッキング旅行の途中で、自炊していたという。3日前に砂利道で転倒し、左母指と左示指とに挫創を生じた。昨日の夕食は、食事直前に開けた缶詰の牛肉、自分で採取した山菜の炒め物、自分で釣った川魚の塩焼き、自分で作ったおにぎり及び日本酒1合だったという。夕食の直後には異常はなかったが、約4時間後に急激に腹痛と下痢とを発症した。発症後、約3時間経過して症状は徐々に改善しつつあるという。アレルギー歴はない。意識は清明。体温37.0℃。脈拍72/分、整。血圧116/76 mmHg。呼吸数14/分。臍周囲に圧痛を認める。腸雑音は亢進している。腹膜刺激症状を認めない。

診断として最も考えられるのはどれか。

- a 亜鉛中毒
- b 農薬中毒
- c アニサキス症
- d 細菌性食中毒
- e 急性アルコール中毒

35 72歳の男性。意識消失のため搬入された。今朝、意識がない患者を発見した家族が救急車を要請した。数か月前から食事前になると寝ていて呼びかけに反応が鈍いことがあり、ジュースを摂取して回復していたという。今までに糖尿病を指摘されたことはない。身長168 cm、体重68 kg。脈拍88/分、整。血圧142/80 mmHg。血液生化学所見：血糖33 mg/dl。

現在の病態の原因検索に有用でない検査項目はどれか。

- a 血中インスリン
- b 血中コルチゾール
- c 血中インスリン抗体
- d 血中副甲状腺ホルモン
- e 血中インスリン受容体抗体

36 68歳の女性。心窩部痛を主訴に来院した。昨日から心窩部痛が出現し、次第に増悪してきたため受診した。意識は清明。体温37.8℃。脈拍92/分、整。血圧186/78 mmHg。呼吸数16/分。眼球結膜に黄染を認めない。心窩部に圧痛を認める。肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球419万、Hb 12.7 g/dl、Ht 38%、白血球17,200(桿状核好中球7%、分葉核好中球76%、単球3%、リンパ球14%)、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.0 g/dl、尿素窒素11 mg/dl、クレアチニン0.5 mg/dl、総ビリルビン1.2 mg/dl、AST 51 IU/l、ALT 120 IU/l、ALP 390 IU/l(基準115~359)、 γ -GTP 70 IU/l(基準8~50)、アミラーゼ40 IU/l(基準37~160)。CRP 20 mg/dl。腹部単純CT(別冊No. 13)を別に示す。抗菌薬の投与と経皮経肝胆嚢ドレナージとを行った。

次に行う治療として適切なのはどれか。

- a 胆嚢摘出術
- b 肝右葉切除術
- c 総胆管空腸吻合術
- d 体外衝撃波結石破碎術
- e ウルソデオキシコール酸の経口投与

別冊 No. 13

37 64歳の女性。頻尿と尿意切迫感を主訴に来院した。1週前から自宅近くの診療所で抗菌薬を投与されていたが改善しないため受診した。尿所見：蛋白(±)、糖(-)。沈渣に赤血球1～4/1視野、白血球1～4/1視野、細菌(-)。尿細胞診クラスⅡ(陰性)。腹部超音波検査で残尿を認めない。

次に行うべき対応として適切なのはどれか。

- a 飲水制限
- b 抗菌薬の変更
- c 抗不安薬の経口投与
- d α_1 遮断薬の経口投与
- e 抗コリン薬の経口投与

38 70歳の男性。息切れを主訴に来院した。5年前に胃癌のため胃全摘術を受けた。眼瞼結膜は貧血様である。眼球結膜に黄染を認めない。胸骨左縁で収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部の正中部に手術痕を認める。肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球185万、Hb 8.3 g/dl、Ht 25%、網赤血球0.3%、白血球3,900、血小板8.1万。血液生化学所見：尿素窒素12 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl、総ビリルビン2.1 mg/dl、直接ビリルビン0.2 mg/dl、AST 28 IU/l、ALT 16 IU/l、LD 1,280 IU/l(基準176～353)、Fe 65 μ g/dl(基準59～161)、ビタミンB₁₂ 112 pg/ml(基準250～950)、葉酸8.3 ng/ml(基準2.4～9.8)。末梢血塗抹標本で核に過分葉のある成熟好中球を認め、骨髓血塗抹標本で巨赤芽球を認める。ビタミンB₁₂の筋肉内投与が行われ、貧血は改善しつつあったが、治療中に改善がみられなくなった。

現時点で患者に不足していると考えられるのはどれか。

- a 鉄
- b 亜鉛
- c ビタミンC
- d ビタミンB₆
- e エリスロポエチン

39 23歳の女性。下肢の浮腫を主訴に来院した。3週前から軟便と腹部不快感とがみられていた。1週前から下肢の浮腫が出現し、次第に増悪してきたため受診した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。身長158 cm、体重70 kg。体温36.3℃。脈拍92/分、整。血圧124/74 mmHg。全身の浮腫が著明である。皮疹を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。尿所見：蛋白3+、糖(-)、潜血(-)、沈渣に硝子円柱1/数視野、卵円形脂肪体1/数視野。血液所見：赤血球586万、Hb 17.3 g/dl、Ht 50%、白血球5,400、血小板28万。血液生化学所見：血糖99 mg/dl、総蛋白4.6 g/dl、アルブミン1.4 g/dl、尿素窒素9 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、尿酸7.5 mg/dl、総コレステロール880 mg/dl、トリグリセリド120 mg/dl、AST 22 IU/l、ALT 23 IU/l、Na 141 mEq/l、K 4.3 mEq/l、Cl 105 mEq/l。免疫学所見：CRP 0.2 mg/dl、CH₅₀ 32.4 U/l(基準30~40)。腎生検のPAS染色標本(別冊No. 14A)と電子顕微鏡写真(別冊No. 14B)とを別に示す。

治療薬として最も適切なのはどれか。

- a HMG-CoA還元酵素阻害薬
- b 抗血小板薬
- c シクロホスファミド
- d 副腎皮質ステロイド
- e 利尿薬

別冊 No. 14 A、B

40 17歳の男子。意識消失のため搬入された。昼食にうどんを食べた後、晴天の屋外で同級生とサッカーをした。運動開始30分後、前胸部のかゆみを訴えた。その後、意識を失い倒れたため、救急搬入された。1か月前、スパゲッティを食べた後サッカーをしていたところ、程度は軽いものの同様の症状があったという。夜食にうどんを食べても異常はなく、空腹時にサッカーをしても異常はなかったという。意識は清明。喘鳴が強い。前胸部に膨疹を認める。脈拍132/分、整。血圧82/40 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂98%(マスク4l/分酸素投与下)。

症状改善後の生活指導として適切なのはどれか。

- a 運動は屋内で行う。
- b 食直後の運動は避ける。
- c 準備運動を十分に行う。
- d 現時点での対応は必要ない。
- e 運動はサッカー以外の種目に変更する。

41 58歳の女性。腹部膨満感と全身倦怠感を主訴に来院した。3か月前から腹部の膨満感を自覚していた。3週前から全身倦怠感が著明になったため受診した。身長158 cm、体重60 kg。体温36.8℃。脈拍80/分、整。腹部は腹水のため膨隆している。下肢に浮腫を認める。血液所見：赤血球418万、Hb12.5 g/dl、Ht39%、白血球9,500、血小板31万。血液生化学所見：総蛋白4.8 g/dl、アルブミン2.1 g/dl、尿素窒素6.7 mg/dl、クレアチニン0.5 mg/dl、総ビリルビン0.4 mg/dl、AST29 IU/l、ALT7 IU/l、LD368 IU/l(基準176~353)、Na131 mEq/l、K4.0 mEq/l、Cl101 mEq/l、CA19-9 22 U/ml(基準37以下)、CA125 4,411 U/ml(基準35以下)。動脈血ガス分析(room air)：pH7.43、PaCO₂44 Torr、PaO₂81 Torr、HCO₃⁻28 mEq/l。骨盤部MRIのT2強調矢状断像(別冊No. 15A)とT2強調横断像(別冊No. 15B)とを別に示す。

治療方針を決定するための検査として重要性が低いのはどれか。

- a 胸部CT
- b 腹水穿刺
- c 凝固・線溶検査
- d 子宮内膜細胞診
- e 下部消化管内視鏡検査

別冊 No. 15 A、B

42 50歳の女性。腹部膨満感を主訴に来院した。3年前に高血圧を指摘されたが降圧薬は内服していない。母親が慢性腎不全で60歳から血液透析を受け、65歳時にくも膜下出血で死亡している。腹部触診で両側の腹部に凹凸のある腫瘤を触れるが圧痛はない。腸蠕動音は弱い。体温36.5℃。血圧162/90 mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(±)。血液所見：赤血球382万、Hb 10.2 g/dl、Ht 32%、白血球5,600、血小板28万。血液生化学所見：アルブミン3.8 g/dl、尿素窒素22 mg/dl、クレアチニン1.2 mg/dl。CRP 0.2 mg/dl。腹部単純CT(別冊No. 16)を別に示す。

この患者で検索すべきなのはどれか。

- a 肝細胞癌
- b 大腸ポリープ
- c 尿管癌
- d 脳動脈瘤
- e 肥大型心筋症

別冊
No. 16

43 56歳の女性。物忘れを主訴に長女に連れられて来院した。1年前から寒がりになり、冬季は家にこもってほとんど外出しなくなった。別居中の長女が訪問した際、部屋にはごみが散乱しており、受け答えが支離滅裂で長女の名前を想起することができなかったという。身長151 cm、体重62 kg。体温35.8℃。脈拍52/分、整。血圧108/68 mmHg。呼吸数14/分。頭髪と眉毛とが疎である。胸腹部に異常を認めない。両下腿に圧痕を残さない浮腫を軽度認める。嗄声で声量は小さく、改訂長谷川式簡易知能評価スケールは7点(30点満点)。脳神経系、感覚系および小脳系に異常を認めない。筋力は正常だがアキレス腱反射で弛緩相の遅延を認める。

診断のために測定すべきなのはどれか。

- a 抗核抗体
- b アンモニア
- c ビタミンB₁
- d セルロプラスミン
- e TSH〈甲状腺刺激ホルモン〉

44 24歳の女性。腹痛を主訴に来院した。昨日朝から心窩部不快感と悪心とを自覚した。本日朝から右下腹部に痛みが出現し、一度嘔吐した。午後になって歩行時に腹部に響く痛みがあり、前かがみで歩行するようになったため受診した。昨日は排便があったが、本日はない。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。喫煙歴と飲酒歴とはない。最終月経は2週前。体温37.9℃。脈拍84/分。血圧120/80 mmHg。身体所見で腹部はやや膨満し、腸雑音は聴取しない。触診で右下腹部は硬く、圧痛と反跳痛とを認める。血液所見：赤血球430万、Hb 12.9 g/dl、Ht 38%、白血球16,300(桿状核好中球10%、分葉核好中球72%、好酸球1%、単球3%、リンパ球14%)、血小板23万。血液生化学所見：AST 25 IU/l、ALT 10 IU/l、ALP 250 IU/l(基準115~359)、アミラーゼ49 IU/l(基準37~160)。CRP 8.9 mg/dl。妊娠反応は陰性。腹部超音波検査では、下腹部は消化管ガスのため観察が困難である。腹部単純CT(別冊No. 17)を別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 急性腸炎
- b Crohn病
- c 急性虫垂炎
- d 骨盤腹膜炎
- e 大腸憩室炎

別冊
No. 17

45 11か月の乳児。皮膚の発赤とびらんとを主訴に来院した。10日前から顔面に皮疹を認めていた。皮疹は次第に全身に拡大し、びらんを伴うようになった。37.8℃の発熱を認めたが機嫌は良く、食欲も低下しなかった。全身状態は良好。眼球結膜と口腔粘膜とにびらんと出血とを認めない。顔面、前頸部、肘窩、膝窩、鼠径部および陰部にびらんを伴う広範な発赤を認める。血液所見：赤血球416万、Hb 12.8 g/dl、Ht 39%、白血球11,200、血小板22万。CRP 0.3 mg/dl。来院時の顔面の写真(別冊No. 18)を別に示す。

この疾患の原因となる病原体はどれか。

- a 肺炎球菌
- b カンジダ
- c 連鎖球菌
- d 黄色ブドウ球菌
- e 単純ヘルペスウイルス

別 冊
No. 18

46 52歳の女性。1年前から徐々にピアノを弾くのが下手になってきたことを主訴に来院した。男児2人の分娩歴があり、次男は出生直後から自力呼吸ができず、呼吸器感染症のため生後6か月で死亡している。身長162 cm、体重48 kg。体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧132/70 mmHg。呼吸数16/分。顔貌は面長である。胸腹部に異常はない。上下肢遠位筋に徒手筋力テストで4〈good〉の筋力低下があり、腱反射は低下している。病的反射を認めない。感覚障害と小脳性失調とを認めない。こぶしを力いっぱい握らせた後で合図と共に手を開かせた際の手の写真(別冊No. 19)を別に示す。

この患者の診断に有用な検査はどれか。

- a 針筋電図
- b 表面筋電図
- c 聴性脳幹反応
- d 運動神経伝導検査
- e 反復性誘発筋電図

別 冊
No. 19

47 20歳の男性。オートバイを運転中に事故で受傷し2時間後に搬入された。搬入時、意識障害と腹部症状とを認めない。胸部、腹部および骨盤部エックス線写真で右大腿骨骨折と骨盤骨折とを認めるが、血胸、気胸および肋骨骨折を認めない。搬入時血圧は120/70 mmHgであった。20分後に顔面蒼白となり、脈拍120/分、血圧70/40 mmHgとなった。SpO₂ 100% (リザーバー付マスク10 l/分酸素投与下)。血液所見：赤血球255万、Hb 7.0 g/dl、Ht 25%、白血球12,200、血小板19万、フィブリノゲン200 mg/dl (基準200~400)、FDP 8 μg/ml (基準10以下)。緊急に行われた造影CTで後腹膜出血を認める。

輸血と骨盤創外固定に加えて直ちに行うべきなのはどれか。

- a 鋼線牽引
- b 動脈塞栓術
- c 大腿骨髓内釘
- d ヘパリンの持続静注
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の投与

48 23歳の女性。嘔吐と意識障害のため搬入された。付き添ってきた友人によると数日前から嘔吐が始まり、今朝から「錯乱状態となっている」という。高校生のころ甲状腺の病気で一時通院したが、薬疹が出たため中止したという。閉眼のまま身体をねじらせてうなるだけで呼びかけに反応しない。体温37.4℃。脈拍180/分、整。血圧104/60 mmHg。眼球突出とびまん性の甲状腺腫大とを認める。著明な発汗を認める。血液所見：赤血球480万、Hb 14.5 g/dl、Ht 46%、白血球9,000、血小板31万。血液生化学所見：尿素窒素34 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、総コレステロール119 mg/dl、ALT 187 IU/l、FT₄ 13.8 ng/dl(基準0.8~1.7)。

治療として適切でないのはどれか。

- a 輸液
- b β遮断薬の投与
- c ヨード摂取の制限
- d メチマゾールの投与
- e 副腎皮質ステロイドの投与

49 60歳の女性。血便を主訴に来院した。以前から便秘があり、下剤を使用していた。数日間排便がないため、昨日就寝前に通常の2倍量の下剤を服用した。本日朝下腹部痛とともに、水様下痢を認めた。その後も腹痛は持続し、新鮮血の排泄が数回あったため受診した。不整脈と糖尿病とで治療中である。体温36.7℃。脈拍92/分。血圧126/84 mmHg。眼瞼結膜に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腹部に圧痛を認める。血液所見：赤血球430万、Hb 13.1 g/dl、Ht 39%、白血球8,700、血小板19万。CRP 1.2 mg/dl。下部消化管内視鏡検査を施行した。S状結腸の内視鏡像(別冊No. 20)を別に示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 絶食
- b 副腎皮質ステロイドの注腸
- c 内視鏡的止血術
- d 上腸間膜動脈塞栓術
- e 大腸切除術

別冊 No. 20

50 64歳の男性。下肢の痛み、感覚鈍麻および体重減少を主訴に来院した。半年前の健康診断で高血糖を初めて指摘されたが腎障害はなく医療機関を受診しなかった。1か月前から両下肢感覚鈍麻があり、食欲低下が続き体重が3kg減少した。身長170cm、体重58kg。体温37.0℃。脈拍92/分、整。血圧148/86mmHg。呼吸数16/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。両下腿の感覚低下を認める。下腿に浮腫と紫斑とを認めない。尿所見：蛋白3+、糖(-)、沈渣に赤血球30~49/1視野、顆粒円柱1~4/1視野。血液所見：赤血球311万、Hb9.5g/dl、Ht29%、白血球4,500(分葉核好中球63%、好酸球4%、好塩基球1%、単球7%、リンパ球25%)、血小板24万。血液生化学所見：空腹時血糖132mg/dl、HbA1c(NGSP)6.4%(基準4.6~6.2)、総蛋白6.8g/dl、アルブミン3.0g/dl、尿素窒素69mg/dl、クレアチニン4.3mg/dl、総コレステロール266mg/dl、トリグリセリド215mg/dl、Na140mEq/l、K6.0mEq/l、Cl110mEq/l、Ca8.6mg/dl、P5.0mg/dl。免疫学所見：CRP3.5mg/dl、CH₅₀54.7U/l(基準30~40)。腎生検のPAS染色標本(別冊No. 21)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 悪性腎硬化症
- b 感染後急性糸球体腎炎
- c 顕微鏡的多発血管炎
- d コレステロール塞栓症
- e 糖尿病腎症

別 冊
No. 21

51 84歳の男性。左膝の痛みと発熱とを主訴に来院した。一昨日に日帰りのバス旅行に参加した。昨日から左膝の痛みと39℃の発熱とが出現した。本日は痛みのため歩行が困難になり受診した。体温37.7℃。脈拍84/分、整。血圧148/82 mmHg。呼吸数14/分。左膝に腫脹、熱感および圧痛を認める。血液所見：赤血球405万、Hb 13.0 g/dl、Ht 41%、白血球9,200、血小板32万。血液生化学所見：尿素窒素19 mg/dl、クレアチニン0.9 mg/dl、尿酸5.5 mg/dl、AST 28 IU/l、ALT 26 IU/l、LD 258 IU/l(基準176~353)、Na 140 mEq/l、K 4.5 mEq/l、Cl 104 mEq/l。CRP 8.7 mg/dl。左膝関節エックス線写真(別冊No. 22)を別に示す。

関節穿刺液中に認められる結晶はどれか。

- a 尿酸ナトリウム
- b リン酸カルシウム
- c シュウ酸カルシウム
- d ピロリン酸カルシウム
- e ハイドロキシアパタイト

別冊
No. 22

52 19歳の男性。発熱とのどの痛みとを主訴に来院した。2日前から咽頭痛と39℃の発熱が出現し、市販の総合感冒薬を内服したが、症状が改善しなかった。意識は清明。体温38.2℃。脈拍92/分、整。血圧110/70 mmHg。両側の頸部に圧痛を伴う径1.5 cmのリンパ節をそれぞれ3個触知する。咽頭粘膜の発赤を認める。偽膜を伴う扁桃腫大を認める。呼吸音に異常を認めない。右肋骨弓下に肝を3 cm、左肋骨弓下に脾を2 cm触知する。血液所見：赤血球475万、Hb 15.2 g/dl、Ht 45%、白血球16,000(分葉核好中球26%、好酸球3%、単球4%、リンパ球37%、異型リンパ球30%)、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白7.4 g/dl、尿素窒素22 mg/dl、総ビリルビン1.2 mg/dl、AST 50 IU/l、ALT 88 IU/l。CRP 5.3 mg/dl。

確定診断に最も有用な検査はどれか。

- a 咽頭培養
- b 骨髄穿刺
- c リンパ節生検
- d 鼻腔ぬぐい液迅速検査
- e 血清ウイルス抗体価測定

53 75歳の女性。半年前から徐々に増大する左頸部の腫瘍を主訴に来院した。左頸部に圧痛を伴わない径3 cmのリンパ節を1個触知する。血液所見：赤血球428万、Hb 12.4 g/dl、Ht 38%、白血球7,500(好中球66%、好酸球1%、好塩基球1%、単球5%、リンパ球27%)、血小板30万。CRP 1.7 mg/dl。喉頭内視鏡像と胸部エックス線写真とで異常を認めない。左頸部リンパ節からの穿刺吸引細胞診では診断がつかず、確定診断のために生検を行った。生検のH-E染色標本(別冊No. 23)を別に示す。

治療薬として最も適切なのはどれか。

- a 抗真菌薬
- b 抗結核薬
- c 抗悪性腫瘍薬
- d ペニシリン系抗菌薬
- e 副腎皮質ステロイド

別 冊
No. 23

54 65歳の男性。特に誘因のない突然の激しい胸背部痛のため搬入された。搬入時、顔貌は苦悶様であった。意識は清明。体温 36.8℃。脈拍 104/分、整。右上肢血圧 140/82 mmHg、左上肢血圧 138/78 mmHg。SpO₂ 100% (マスク 4 l/分酸素投与下)。呼吸音と心音とに異常を認めない。四肢末梢にチアノーゼを認めない。両下肢の脈拍の触知は良好。心電図に異常を認めない。胸部エックス線写真で心胸郭比 50%。胸部造影 CT (別冊No. 24) を別に示す。

治療として適切なのはどれか。

- a 降圧を行いながら経過をみる。
- b 血栓溶解療法を行う。
- c 大動脈バルーンパンピング (IABP) を行う。
- d 肺動脈血栓除去術を行う。
- e 上行大動脈人工血管置換術を行う。

別冊
No. 24

55 48歳の女性。健康診断で眼底の異常を指摘され来院した。視力は右 1.2 (矯正不能)、左 1.2 (矯正不能)。眼圧は右 23 mmHg、左 26 mmHg。左眼底写真 (別冊No. 25 A) と視野 (別冊No. 25 B) とを別に示す。右眼も同様の所見である。

治療として適切な点眼薬はどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬
- b β遮断薬
- c 抗アレルギー薬
- d 炭酸脱水酵素阻害薬
- e 副腎皮質ステロイド

別冊
No. 25 A、B

56 16歳の女子。1週間からの左聴力の低下を主訴に来院した。両側鼓膜に異常を認めない。あぶみ骨筋反射は正常。純音聴力検査の結果(別冊No. 26)を別に示す。

次に行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a 音叉検査
- b 遊戯聴力検査
- c 頭位変換眼振検査
- d 自記オージオメトリ
- e 聴性脳幹反応〈ABR〉

別冊 No. 26

57 67歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。5年前から労作時の呼吸困難を自覚していた。1週前から感冒様症状が出現し、咳嗽、喀痰および呼吸困難が増悪したため受診した。喫煙は40本/日を47年間。現在も喫煙を続けている。意識は清明。身長165cm、体重56kg。体温37.8℃。脈拍112/分、整。血圧142/84mmHg。呼吸数22/分。SpO₂86%(room air)。頸静脈の怒張を認める。右季肋部で肝を3cm触知する。聴診で両側の胸部に wheezes と coarse crackles とを聴取する。血液所見：赤血球388万、Hb11.9g/dl、Ht35%、白血球11,300(桿状核好中球18%、分葉核好中球58%、好酸球2%、好塩基球1%、単球7%、リンパ球14%)、血小板35万。CRP4.0mg/dl。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH7.37、PaCO₂78Torr、PaO₂56Torr、HCO₃⁻44mEq/l。胸部エックス線写真(別冊No. 27A)と肺野条件の胸部CT(別冊No. 27B)とを別に示す。

治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬の投与
- b 胸腔ドレナージ
- c 免疫抑制薬の投与
- d 高濃度酸素の投与
- e 気管支拡張薬の投与

別冊 No. 27 A、B

58 60歳の男性。自宅で測定した血圧が高いことを主訴に来院した。5年前から健康診断で高血圧を指摘されているが、自覚症状がないためそのままにしていた。高血圧症治療中の兄が1か月前に脳梗塞を発症したため心配になり、自宅で血圧を測定するようになった。最近1週間の血圧測定結果を持参して来院した。喫煙は20本/日を40年間。現在も喫煙を続けている。飲酒歴はない。身長170 cm、体重80 kg。脈拍72/分、整。血圧136/84 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。

最近1週間の家庭血圧測定結果

曜日	起床時血圧(mmHg)	就寝前血圧(mmHg)
月曜	160/90	120/80
火曜	164/96	130/78
水曜	170/98	126/82
木曜	152/92	124/78
金曜	166/96	122/82
土曜	154/94	128/80
日曜	162/94	126/80

この患者に対する説明で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 「禁煙が必要です」
- b 「短時間作用型の降圧薬が適しています」
- c 「家庭血圧は週1回の測定にしてください」
- d 「就寝前の血圧が正常なので心配ありません」
- e 「体重を減らすと起床時の血圧の低下が期待できます」

59 58歳の男性。3か月前から続く背部痛と左上腹部痛とを主訴に来院した。20歳過ぎからアルコールを多飲している。意識は清明。身長165 cm、体重52 kg。脈拍76/分、整。血圧112/78 mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。背部の皮膚に異常を認めない。血液所見：赤血球385万、Hb 12.5 g/dl、Ht 36%、白血球5,800、血小板23万。血液生化学所見：空腹時血糖112 mg/dl、総蛋白6.3 g/dl、アルブミン3.4 g/dl、総ビリルビン0.7 mg/dl、AST 23 IU/l、ALT 18 IU/l、ALP 295 IU/l(基準115~359)、 γ -GTP 120 IU/l(基準8~50)、アミラーゼ232 IU/l(基準37~160)、CA19-9 32 U/ml(基準37以下)。

この患者でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 耐糖能異常
- b 膵液量の増加
- c 糞便中脂肪量の低下
- d 膵液中重炭酸濃度の上昇
- e BT-PABA 試験で尿中PABA排泄量の低下

60 47歳の男性。人間ドックで経口グルコース負荷試験(75 gOGTT)での境界型と心電図異常とを指摘され来院した。父親が心筋梗塞のため49歳で死亡。喫煙は20本/日を27年間。飲酒は日本酒1合/日を10年間。身長165 cm、体重73 kg。脈拍72/分、整。血圧124/80 mmHg。血液生化学所見：総コレステロール180 mg/dl、トリグリセリド112 mg/dl、HDLコレステロール60 mg/dl。

この患者における冠動脈疾患のリスクファクターはどれか。3つ選べ。

- a 飲酒
- b 喫煙
- c 家族歴
- d 脂質異常
- e 耐糖能異常

